

未来の展望

日本医工ものづくりコモンズ・医理産業新聞社共同企画

第39回 医療クラウドファンディング
推進フォーラムセミナー

クラウドファンディングはここ数年で急成長を遂げ、多くの人が資金調達をおこなっています。医療分野においても多くの成功プロジェクトが誕生し、クラウドファンディングをより一層活用していくことが重要となります。クラウドファンディングを良く知っていただき、医工連携における活用可能性について考えていただけたらと思います。

日本医工ものづくりコモンズの柏野です。第39回は、医療クラウドファンディング推進フォーラムセミナーのレポートです。レポートをくださったのは、日本医工ものづくりコモンズ 評議員 朝日大樹氏(臨床工学技士)です。

今回レポートをおこなった医療クラウドファンディング推進フォーラムでは、多様化するクラウドファンディングを医療機器開発や医療ベンチャー経営により効果的に活用する道筋を探求し、医工連携のその先の未来を共に創る取り組みをおこなっています。

医療クラウドファンディング推進フォーラムセミナーは、テーマ「FUNDINNOのサービス説明と事例紹介」を2022年3月28日にカンファレンスパークで開催しました。

株式投資型クラウドファンディングとは、新規・成長企業へのリスクマネーの円滑な供給に資することを目的として、金融商品取引法等の改正により2015年5月に創設された非上場株式の発行を通じた資金調達をおこなうための制度です。セミナーでは、株式投資型クラウドファンディングとはどんな仕組みなのか。日本初のプラットフォーム「FUNDINNO」について、そのサービス内容と実際の活用事例を説明・紹介していただきました。



株式会社 FUNDINNO シニアマネージャー
荒木 浩明氏
大手VCと独立系VCにて約19年間、ベンチャー企業への投資・育成業務に携わる。2018年4月に(株)日本クラウドキャピタル(現(株)FUNDINNO)にジョインし、FUNDINNOの認知向上と30件以上の成約案件に関与。



神奈川県立保健福祉大学
ヘルスイノベーション研究科(開催当時)
稲垣 大輔氏
病院で臨床工学技士と勤務しながら、開発途上国における医療環境向上を目的とした研究に従事。研究から生まれた「医療機器管理教育システム」はジャパン・ヘルスケアビジネスコンテスト2022アイデア部門でグランプリを受賞し、起業準備中。



柏野 聡彦
一般社団法人日本
医工ものづくり
コモンズ 副理事長



インタビュー
朝日 大樹
日本医工ものづく
りコモンズ 評議員

～「FUNDINNOのサービス説明と事例紹介」セミナー～

株式会社 FUNDINNO は、この国のベンチャーマーケットを、よりオープンに、民主的にすべての起業家と投資家にとっての、情報・機会の格差をなくし、「フェアに挑戦できる、未来を創る」ことを目的に2015年11月に設立されました。日本(約0.8兆円)と米国(約38兆円)のベンチャー企業への投資額に雲泥の差があり、未上場企業の資金調達の手段は限定的でした。リスクマネーの流れを円滑にし、投資家と企業の情報の非対称性を解消するため、株式投資型クラウドファンディング「FUNDINNO」が誕生しました。

株式投資型クラウドファンディングでは、ベンチャー企業は1年間で募集上限金額1億円未満の資金調達が可能で、投資家は1社あたり10万円前後から50万円までの投資をおこない、ベンチャー企業の未公開株式を長期保有します。2021年度の案件は99件で年々増加(2021年12月末時点のEXIT事例は7件、倒産・解散事例は5件)しています。特徴は、FUNDINNOに登録している約9.7万人(2022年3月末時点)の投資家にPRし、多くの投資家を巻き込み応援(ファン投資家の獲得)していただけます。投資家は、首都圏在住の30代から40代が多く、投資目的として、「企業の成長を応援したいから」、「長期投資を目的にしたいから」などがあげられます。

～株式投資型クラウドファンディングを聞く～

稲垣: 御社の株式投資型クラウドファンディングの審査基準をお聞かせください。

荒木: 弊社は金融商品取引法にもとづいた厳正な審査を通過した企業を投資家にご紹介しています。事業内容については新規性・独自性(特許など)や成長性(マーケット規模)の他に、投資家に応援していただけるような事業ストーリーがあるかも重視しております。

稲垣: これまでの株式投資型クラウドファンディングで、調達ができる企業、できない企業に何か違いはありますか。

荒木: なるべく多くの企業の資金調達を支援したいと考えています。その企業の事業成長が遅いと予測されていても「この事業が社会に役立つ」と判断したら、投資家からの資金調達が成功できるように、募集準備および募集の期間中にこれまでの弊社の経験を注ぎ込みます。

稲垣: 医工連携では、新規性や独自性よりも「医療現場にこういう問題や課題があり解決したい」という思いがあります。そういう思いは御社に相談は可能でしょうか。

荒木: 弊社は医療分野の専門家ではないので、専門性については分からないことが多いです。企業も高い技術やアイデアを持っているからといって、投資家に対する説明が上手い訳ではありません。投資家にどのように説明したら分かりやすく伝わるかをお手伝いしています。

柏野: 医工連携に取り組んでいる企業は、自分たちのことは良く分かっているんですけど、投資家に対して分かりやすく説明することは難しいのが現状です。ベンチャーキャピタルや投資の専門家は、投資先の技術について詳しく調査します。しかし株式投資型クラウドファンディングのプラットフォームでは理解するにも限られてしまうのではないかと感じるところがあります。投資が専門ではない投資家に理解してもらうためにどうしたら良いか、その表現で伝わるかどうか、もっと面白く伝える方法があるのではないかと、そういう所を教えてもらえることは有難いことだと思います。

荒木: 「何が医療の現場の課題になっているか」専門性が強くなればなるほど分かりませんが、現場の課題がどのように変わることによって解決するのか、そういう所は投資家も理解できるので、投資して応援しようと納得してもらえそうです。プラットフォームの募集ページの構成も常に改善を続けています。世の中の流れも変わり、投資家の経験値も増えてきているのが現状です。企業・投資家双方にとって間口を広げるサービスとして、「FUNDINNO MARKET」も始めました。弊社が考えていなかったようなご相談があっても、やっていないからダメではなくて、こうやったらできるのではないかと一緒に考えていきたいと思っています。

柏野: 投資の最終判断は、応援したいかどうかを感じとれるかどうかですけど、そういう情報が伝わることは、とても大切だと思います。医療分野では資金調達が何%の案件が成功していますか、また資金調達の際、何%の株式を投資家に提供をしますか。

荒木: 医療分野だけではデータを取っておりませんが、累計では約70%の案件が資金調達に成功しています。金額は企業のステージによって違いはありますが、投資家に分かりやすい案件が資金調達に成功しています。企業が現時点で必要な資金を調達できるよう提案し、株式の放出割合は株式全体の約10%になるようにしています。

柏野: 10%の株式を何百人で分け合うので、自ずと1人が保有する株は小さくなります。経営に対する意見はありますか。

荒木: 株式投資型クラウドファンディングの投資家は、経営に関わりたい方は少ないです。「この企業を応援したい」という思いをもつ投資家が多いので、投資を受けるベンチャー企業は投資家と向き合うことが大切になってきます。

稲垣: 何百人の投資家が株式を保有してもらうことは、会社のファンが増えるということで、有難いことだと思います。さらに投資家がつりソースやネットワークの提供が可能になってもらえるように、投資家と対話することが会社の成長に繋がると思います。

柏野: これまでに「ものづくり中小企業をどのように医工連携で成長できるか」を取り組んできました。本社は地域にあってネットワークで投資家を集めて地域で中小企業を育てる発想もあるかと思います。中小企業が外部ベンチャーを作って、連携しやすいコンセプトでリスクを切り出し、外部から資金調達や人的リソースを取り入れ、新しいアイデアで事業が育ち、ベンチャー企業同士の連携の可能性も高められるのではないかと思います。

荒木: 投資家の中心は大都市圏の方々です。地方企業が新しい事業にチャレンジするための資金を株式投資型クラウドファンディングで調達することによって、大都市圏から地方へ資金が流れる仕組みでもあります。

～さいごに～

柏野: 株式投資型クラウドファンディングをどのように医工連携に活用すれば良い未来を創ることができるか、皆さまと一緒に考えていけたらと思います。本日は有難うございました。次回は、2022年5月16日(月)17時からカンファレンスパーク(webオンライン)で無料セミナーを開催します。テーマは「クラウドファンディング成功の秘訣」について、READYFOR株式会社 キュレーター部医療部門長 准認定ファンドレイザー 金久保智哉氏にご講演いただきます。

～ヴァーチャル拠点を開設、医療クラウドファンディング推進フォーラム～



参加登録 QR コード

産業、学術、社会のイノベーション創出と発展を目的として、産学官活動のデジタル化を支え、あらゆる知識、情報、人・組織のコラボレーションを促進するための産学官DXプラットフォーム「カンファレンスパーク」で、ヴァーチャル拠点を開設しています。

参加登録サイトURL(どなたでも無料登録) <https://conference-park.jp/conference/43/top>

第1回テーマ「FUNDINNO」のサービス説明と事例紹介」のセミナーの様子



製品ファイル

テルモ 末梢血管塞栓用コイル「AZUR Soft3D」
コイルの細径化でQOL向上

テルモの「AZUR Soft3D」(アズールソフトスリーディー)は、従来品と比較し、コイルの細径化を図ることで柔軟性を高めQOL向上に貢献する腹部などの血管内治療に用いる中心循環系血管内塞栓促進用補綴材。肺及び腎血管の血管奇形、腎動脈瘤、腹部動脈瘤等の血管病変の塞栓術に使用される。

末梢血管塞栓用コイルは、血管内や動脈瘤などに留置する医療機器だが、肺の血管奇形や内臓動脈瘤などの病変塞栓に使用され、太ももの付け根、または手首の血管からカテーテルを挿入し、患部までコイルを運び、血管および瘤を塞栓して血流を遮断する。カテーテルを用いた血管内治療は、患者の身体への負担も少ないことから、心臓、脳、下肢などをはじめ全身の血管へ広がっている。

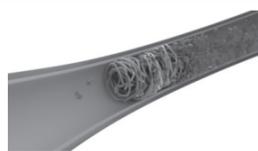
AZUR シリーズは、2012年から国内で展開しており、コイル間にハイドロゲ

ル(塞栓物質)が満たされることで塞栓するというユニークなコンセプトを持った製品で、患部への高い充填率が期待されるもの。AZUR Soft3Dは、従来品と比較し、コイルの細径化を図ることで柔軟性を高め、また、プッシュャーカテーテル部分の改良により、コイル挿入時の操作が改善されている。これにより、患部へのコイルの到達性が向上し、蛇行した血管を介しての塞栓や、短い塞栓区域にしっかりとコイルを詰めることが期待できるとしている。

キヤノンメディカルシステムズ

超音波診断装置「Aplio flex」/「Aplio go」
高性能アプリケーションを搭載可能

キヤノンメディカルシステムの「Aplio flex」(アプリオ フレックス)と「Aplio go」(アプリオ ゴー)は、コンパクトなボディに、生活習慣病のマネジメントに貢献する高性能アプリケーションを搭載可能な超音波診断装置。



「AZUR Soft3D」留置イメージ

AIを用いて開発されたアプリケーションにより、効率の高い検査ワークフローを実現するとしている。

近年我が国では、高齢化に伴い、喫煙や食生活・飲酒などの生活習慣、運動不足やストレスなどの生活環境を原因とした生活習慣病の管理が重要と言われており、健康増進や発病予防という一次予防対策が必要不可欠となってきていることに応える。

主な特長

▽コンパクトでスタイリッシュなデザイン=検査者の身体的負担を軽減したコンパクトなデザイン設計となっており、従来装置に比べて操作パネル下に空間が確保されるため検査中に膝が奥に入りやすく、より操作パネル近くで操作できる。また、限られたスペースの場合、従来装置の奥行きでは届きにくかった頸動脈エコーでも、患者の位置を変えることなく、装置ごと軽々と前後移動でき、無理な検査態勢にならずにゆとりをもった空間で検査が行える。

▽生活習慣病の管理に貢献するアプリケーション



「Aplio flex」/「Aplio go」